

費々

進磨振重明心
文知元座大倫
明海寺恥義理

同窓会会報

2011年/平成23年/第27号

編集・発行 濟々費同窓会

〒860-0862 熊本市黒髪2丁目21番50号 財多士会館内
☎096-345-3002 傳096-346-3225

各種お問い合わせはこちらへ

tashi@seiseiko-dosokai.gr.jp

各地区同窓会へご登録下さい!

各地在住で地区同窓会案内が欲しい方、このアドレスで氏名・卒年・住所や希望地区をご連絡下さい。該当する各地区に登録致します。

seiseikodosokai@gmail.com

セイセイコドソカイ

創立129周年大同総会

～5月21日、約900人が出席～

トップインタビュー

同窓会新幹事&委員会紹介

市民公開セミナー多士講座

～4月23日、約1300人が参加～

6地区同窓会座談会

～東京・東海・関西・福岡・宮崎・鹿児島～

各地同窓会実施



学費トピックス

《濟々費の1年・進学・総体・総文》

歴史資料館への招待

～佐々友房編～

青年会、黄線烈伝など

(財) 多士会館からのお知らせ

多士会館維持会費についてご報告と御礼、払込取扱票を折り込んでおります。どうぞご覧下さい。



費々

先日完成した新本館は、明治39年から昭和35年までの費舎「黄壁城」を意識してあり、今昔を繋ぐ歴史を彷彿とさせてくれます。随所に見られる類似点に、温故知新、また三綱領の心を改めて実感できるようです。

正面玄関



黄壁城



新本館

中央階段



新本館の屋上とその風景



濟々費新本館(管理棟)完成

仰ぎ見る新本館

私たちが目を閉じて濟々費を想うとき、浮かぶのは費門から仰ぐ本館の偉容ではないだろうか。それは厳しくも優しく奥深い母費の顔である。「三綱領」が掲げられ、費長はじめ諸先生方の常駐される場所として、立ち入る時は格別の緊張感をもつ建物である。

各校にも正門、管理棟はあるだろうが、これほどの規模の建物は見ることがない。正に県民期待の表れであろう。台帳上は管理棟であろうとも、学舎としての呼称は「本館」がふさわしいのではないか。これから久しく幾千幾万の在費諸士が朝な夕なに仰ぐものは、伝統への畏敬を込めた「本館」であってほしいと切に願わずにはおれない。



廊下(費長室前)



黄壁城



新本館

モダンレトロの雰囲気、細部にわたる装飾の中、真新しい木の香りが背筋を伸ばしてくれるようです。学生時代を過ごしたものと違うのが寂しくも不思議で、しかしこの新本館で青春を謳歌し巣立っていく若き後輩たちが、卒業後にどんな思い出話を語ってくれるのが楽しみでもあります。



▲ハワイ支部（7名所属）から参加。「アロハ」と挨拶をする澤田興洋代表（S41）



▲総会や130周年事業準備について報告する新開徹幹事長（S43）



▲キナセン帽で登壇し開会宣言をする中西満雄副会長（S30 賢友会）



▲新会長として挨拶を述べる井薫会長（S32）



▲3期6年の会長職を務め、任期中の御礼を述べる岩永研一前会長（S26）

同日懇親会に先だち「総会」が開かれた。議事にあたっては岩永会長が議長を務め事業報告・決算・予算、新幹事などが承認された。新会長に井薫氏、他4人の副会長などが承認された。

取材・編集・写真担当
亀光 秀明（S35）、森 佐智子（S46）
坂井木綿子（S60）、勝久 卓治（S63）



- ①会場内は同世代同士のテーブルや先輩後輩で声を掛け合ったりで笑顔に溢れました。
- ②お馴染みとなった「特設託児所」で幼いお子さんを持つママさん同窓生も安心して参加出来ます。
- ③毎年、ピカピカの新卒同窓生はご招待。これから長〜い『同窓会』との良き付き合いを願っています。



幹事・平成2年卒業生。学年オリジナルの「制服Tシャツ」で勢ぞろい！



創立129周年 濟々賢大同窓会

平成23年5月21日 於 熊本ホテルキャッスル 900名参加



※幹事学年H2作成のチャリティーステッカー

我が賢の恩賜記念日5月21日に恒例の大同窓会が「創立129周年」を掲げ、熊本ホテルキャッスル（熊本市城東町）で開催された。
参加者約900人。開会后、井薫新会長（S32）はあいさつで「日本人は大震災を経て原点に帰ることに気付かされた。『濟々賢』を原点と感じている同窓生は多いと思う。私も母賢から有形無形の恩恵を受け今に至る事に大変感謝している。次は個人が母賢に何をすべきであり皆様と共に130周年の節目を迎える準備に尽力したい」と語った。幹事学年の平成2年卒・田中裕司実行委員長が「今年のテーマは『自分自身が濟々賢』。同窓の誇りを共有し、和やかに楽しんで頂けるよう努めます。多数のご出席ありがとうございます」と御礼を述べた。



乾杯の音頭 広島同窓会 吉田正隆会長（S10）

豪快・愉快・意気軒高 吉田大先輩による乾杯の音頭

熱気溢れる会場を更に濟々賢らしく盛り上げたのは、広島同窓会から参加の吉田大先輩（94歳）であった。乾杯の前に話は時空を飛び、昭和初めの濟々賢を駆けめぐった。その振る舞いは正にかくしゃくとしており「振元気」そのもの。乾杯の発声はなんと「濟々賢萬歳!!」であった。会場は歓声の嵐となり、歓談の渦へと広がった。（亀光秀明 S35）

平成23年創立129周年 濟々賢大同窓会



義援金について

当日は東日本震災義援金を呼びかけました。
「チャリティーステッカー」（誌面右上）
販売合計 56万8691円
幹事H2・田中実行委員長が日赤と熊日RK K善意銀行へ寄付を致しました。



カツラやバッグなどの限定グッズ販売



▲次年度幹事平成3年卒業生。中央は荒川慎太郎130周年記念事業実行委員長。

余談

～広島同窓会一行が 賢長を表敬訪問の時、 吉田先輩のお話から～

在賢の当時は「進文明」を「文明に進む」と読んでいました。創立当時の日本はまだ西欧文明に遅れていましたから、その目標に向かう決意の心構えを示したものでしたのです……。

いま私たちは「文明を進む」と読んでいます。この時代に、文明の先頭に立って進める心意気となるか、または驕りになってしまうのか考えるべき一文字であります。



同窓会新幹事&委員会紹介

創立130周年を目前に。
 今期、2年毎に実施されます同窓会役員改選が総会において承認を戴きました。各年次及び幹事推薦委員会によって推薦されたメンバーはご紹介の方々です。任期中には日常の事業活動とは別に創立130周年記念事業が重なる形で参ります。この数年同窓の皆様より寄せられましたアンケートの結果に従い、各委員会にて実行予定記念事業を分担し、ご期待に添えるよう母愛と三綱領精神をもって鋭意努力を致します。記憶に残る素晴らしい周年事業になりますよう、同窓の皆様のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。
 来年度の5月21日「大同窓会」が大いに盛り上がりませうように！
 同窓会幹事長 新開 徹 (S43)

組織委員会

委員長 片桐 英夫 (S58)
 副委員長 原 恵亮 (H4)

組織委員会が担当する済々黌青年会は、ここ数年間ですっかり若手同窓の中に浸透してきました。大同窓会幹事学年を務める前年、青年会の幹事学年となります。青年会事業を行うことで上下学年の同窓達と交流が深まります。大同窓会幹事だけでなく青年会幹事もやる仕組みが出来たので、同級生で責任のある事業を2年間通して行うことになりました。よって、同級生同士の結束にも青年会は役立っております。
 今後は卒業して県内の大学に進学した学生諸君の青年会への参加を増やしたいと思っております。済々黌を卒業して社会に出て活躍している先輩達と学生の時から交流できれば、就職活動や社会に出て大変勉強になる事がきっとあるはずですよ。
 青年会以外には、済々黌ホームページの活性化、130周年事業における各地区同窓会との交流事業など頑張っております。どうか、よろしくお願いいたします。

母愛育成委員会

委員長 大田黒浩一 (S51)
 副委員長 宮田 房之 (S59)

同窓会の委員会の一つ「育成委員会」の委員長を仰せつかった昭和51年卒業の大田黒浩一です。私が幹事として最初に所属したのが育成委員会でした。同窓会新会長になられた井先輩が委員長としておられ、まとめて頂きました。大きな活動に際しては会合を持ち話し合いをする訳ですが、各委員からは熱く真摯な意見が次から次に飛び出します。その内容をもとに、前任の井委員長に実際の活動へと結んで行って貰いました。育成委員会の大きな活動としては、夏場に開かれる学校説明会があります。来春に受験済々黌を目指そうとする中学生諸君に済々黌の素晴らしさを語り呼び掛ける…。もう一つは卒業式の際に表彰される「多士賞」の選定と贈呈があります。「多士賞」は最も済々黌らしい生徒を表彰するのです。
 さて先日は新旧委員の引き継ぎ懇親会(飲み会)がありました。その時も始まると同時に、いかにして済々黌の現役諸君の為に出来るか…が熱く語られ議論噴出でした。そして最終的には「これからは忌憚なく語り合う」ことを確認し別れました。素晴らしい仲間達・同窓生です。同窓会一丸となって母愛の為に頑張りますよ!!



平成23年5月21日撮影(新役員一部)

※表内の委員会名は略しています。◎=委員長、◎=副委員長

総務委員会 委員長 今井 政文 (S49)
 副委員長 野田 研一 (S50)

今年度の事業計画としては、来年の130周年行事に向けて、学費側との事業のすり合わせもあり、早急に詰めていきたいと思っております。
 また、恒例の8月同窓会役員と代表評議員との懇親会や、第7回市民公開セミナー多士講座の開催などを予定しております。
 同窓会財源健全化のために、学年年会費などの収入アップを目指し、いろいろな事業を通して他委員会との連携を図りたいとも考えています。
 さらに今年は、母愛への支援、協力などを行いながら、130周年事業の成功に向けて役員全員が一丸となって頑張っていきたいと思っておりますので、同窓の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

多士会館委員会 副委員長 西村 尚 (S35)

多士会館委員会は今年も一般市民がけたばきで気軽に聴講できる教養講座「けたばき塾」を多士会館で開講します。内容は、今までのものに加えて政治経済から教育、趣味、娯楽などあらゆる分野に広げて行きたいと考えています。講師のご紹介など同窓会の皆様のご協力をお願いします。
 また、多士会館の運営には皆様からの維持会費が不可欠です。維持会費のページでもご紹介しているように、多士会館は在学生の課外や自習、部活動の合宿をはじめ、さまざまな利用をいただいております。加えて、多士会館は本郷の顕著な活動の部活を助成金で応援しています。このような活動を支えるため、ぜひ多士会館維持会費の納入をお願いいたします。

広報委員会 委員長 坂井木綿子 (S60)
 副委員長 荒川慎太郎 (H3)

全同窓生と現役生へお届けする「同窓会会報」を作成しております。本誌は27号。近年は写真中心にカラフルに多くの方に楽しく読んで頂けるようにと知恵を絞っております。新聞スタイルや多くの方に寄稿して頂いたこれまでの会報もすべて同窓会活動の歴史を記す大切な証でもあります。
 特に130周年の節目に、今後「古き良き済々黌」を示せるような懐かしい写真や資料等お持ちの方はご協力頂ければ一層充実させて頂けるものと存じます。読者である皆様からのご要望や情報がなくては良き内容は作れないと思っております。
 今期はS35~H6まで9人が担当。同窓生同志の絆、現役生とのつながりを深める活動となるよう心を込めて務めて参ります。

済々黌同窓会 幹事一覧

(任期：平成23年度及び24年度)

氏名	卒年	委員会	氏名	卒年	委員会
新開 徹	S43	幹事長	森 佐智子	S46	多・広
西村 尚	S35(贊)	多◎	生田真由美	S47	育・多
今井 政文	S49	総◎	中野 和光	S50(贊)	多・広
野田 研一	S50	総◎・広	上村 哲也	S53	総・育
大田黒浩一	S51	育◎	園川 枝	S55	総・育
片桐 英夫	S58	組◎	石丸 昌美	S56	総・育
宮田 房之	S59	育◎・多	勝久 卓治	S63	組・広
坂井木綿子	S60	広◎	浅香 英夫	H1	総・組
荒川慎太郎	H3	広◎・総	田中 裕司	H2	総・組
原 恵亮	H4	組◎・総	新宅 政輝	H2	総・組
末次 義久	S34	育・多	山口 悦史	H4	総・広
龜光 秀明	S35	組・広	山下三美子	H6	組・広
中口 憲昭	S37	総・多	井上 圭一	H7	組・育
東 求	S40	育・多	村上秀一郎	H10	総・組
黒井 恵和	S45	組・育			

トップインタビュー

今春から新たに同窓会と学費の舵をとるお二人をご紹介します。「現在」「過去」「未来」3つの質問に答えて頂きました。

済々黌高等学校
 第29代賛長
 中西 眞也



済々黌同窓会
 第9代会長
 井 薫
 (S32)

1. 現在、取り組んでおられる(特に力を入れておられる)ことは?

年度当初に、生徒、職員に「済々黌生(職員)としての自分のミッションをたて、それに挑戦して下さい。ただ、挑戦には「理」だけでは乗り越えられない壁がある。それを乗り越えるパッション=情熱を持って」と語りました。私自身は、誠実に最後まで粘り強く取り組むことだけが取り柄と思っています。生徒が進取の気性に富み、何事においても全力を発揮する(できる)ようパッションを持って職責を果たしていきたいと考えています。

熊本県サッカー協会会長を始め、熊本市体育協会会長、スペシャルオリンピックス日本・熊本の理事長等を務めています。欧米には「スポーツは文化なり」という言葉があります。まず「県民に元気を」「熊本に活力を」「子ども達に夢を」の口アッソ熊本のスローガンの実現。来年に全国で20番目の政令指定都市、熊本市の誕生を記念して始まる「熊本城マラソン」の成功。知的障がい者の自立につながるスペシャルオリンピックス活動の推進に取り組んでいます。

2. 過去、どのような高校生でしたか? ざっくばらんに答え下さい!

自分では、ごく普通の田舎の高校生だったと思います。物理部室で、モノを作っては壊す、ただ壊すことの方が多かった気がします(苦笑)、本を濫読するなど、授業以外の分野に好奇心が向かうことが多かったと思います。今この様な立場で言いにくいのですが、一所懸命授業をしていたいただいた先生方に申し訳ない気持ちです。

昭和30年代は済々黌のスポーツ黄金時代でした。文武両道の鬨風で先生方も個性的、3年の担任は船津一郎先生。通称はゲンタン(拳骨担任)、よく拳骨を見舞われました。三綱領の中では「元気を振るう」のみが実践できた高校生でした。1976年のモントリオール五輪ハンドボール競技の男子監督、竹野奉昭(S30)。女子監督は私、井薫。同一高校出身は、当時としては全国でも初めて、藤田八郎先生のご指導に感謝です。

3. 未来へ、いかに「済々黌」の伝統・鬨風を継承していくか。

本郷の伝統・鬨風は三綱領に尽きますが、この精神を唱えるだけでは言葉が残るのみであり、いかに生徒に実体を身につけさせるかが大切と考えます。
 今、社会では、結果のみを求め、物事を成し遂げる過程が軽視されがちです。また、学習と社会生活を関連させる意識が希薄です。本郷の生徒も、このような時代の風潮に無縁ではありません。そのような背景もあり、個人の尊厳に加えて、公共の精神を尊ぶことを前文に明記した新しい教育基本法が施行されました。法が三綱領に追いついてきた、という思いです。
 このような中、生徒には、自由闊達な中にも規律を保ち、何のために心身を鍛え学ぶのか、学んだことを社会でどう生かし貢献するのか、などを授業、また部活動や学校行事などの活動を通して考えさせ、真の文武両道を実践させることが伝統の継承につながると思います。
 また、出てから長い済々黌と言われます。現在行われている「同窓生による職業別講演会」など、同窓会との連携も不可欠と考えます。

わが国の教育は戦後、智、徳、体の順位で行われてきましたが、今日の世相を見ると果たして正しかったのか疑問です。知育偏重の弊害を検証される時でしょう。済々黌は文武両道の伝統の中で部活も盛んですが、「同じ釜の飯を食う」その体験から得るものは自己の責任、目的に向けた協働(チームワーク)など実社会に役立つものばかりです。さらに「三綱領」という、明確な指針があります。伝統・鬨風を継承したいものです。

役員紹介

副会長	中西 満雄	S30(贊)	副会長	野口 敏夫	S38
副会長	坂口 勝彦	S33	会計監査	池上 節夫	S28
副会長	城戸 克二	S37	会計監査	木村 淳子	S33



国立大医学部医学科10名合格! (熊本大9名、鹿児島大1名)

旧帝大をはじめとする難関大に51名合格!

(北海道大1名 東北大1名 東京大2名 名古屋大1名 京都大2名 大阪大6名
九州大26名 筑波大4名 一橋大1名 東京外国語大2名 神戸大5名)

濟々覺は創立以来、国や地域のリーダー、あるいは社会の各分野で活躍する人材を数多く輩出してきました。本覺の名前の由来となった「多士濟々」とは、多くの優れた人材が集まる様を表す言葉ですが、社会に有為な人材の育成という本覺の進路指導のスタンスは、現在でも終始一貫変わりありません。大学入試でも、志を高く持ち本当に自分が行きたい大学を目指すというチャレンジスピリット旺盛な生徒達を全面的にバックアップしていきます。

過去3カ年の主な大学合格状況

年	23			22	21	年	23			22	21	
	現役	浪人	計				現役	浪人	計			
北海道大	0	1	1	0	0	首都大学東京	0	0	0	4	3	
東北大	1	0	1	0	0	神戸市立大	3	0	3	1	5	
筑波大	3	1	4	3	1	北九州市立大	6	2	8	2	5	
千葉大	1	0	1	2	0	熊本県立大	29	5	34	26	31	
お茶の水女子大	0	0	0	1	0	その他の公立大	6	7	13	12	15	
東京大	1	1	2	2	3	公立大計	44	14	58	45	59	
東京外大	0	2	2	1	2	青山学院大	0	3	3	3	3	
東京学芸大	0	0	0	1	2	慶応義塾大	4	3	7	7	9	
東京工業大	0	0	0	0	1	駒澤大	0	4	4	0	1	
東京農工大	0	1	1	0	1	自治医科大	0	0	0	1	0	
一橋大	1	0	1	3	1	上智大	1	0	1	1	2	
横浜国立大	3	2	5	1	7	中央大	7	17	24	14	13	
名古屋大	1	0	1	2	1	東京女子大	0	1	1	0	1	
京都大	1	1	2	5	4	成城大	5	1	6	1	2	
大阪大	3	3	6	8	10	東京理科大	1	4	5	4	10	
奈良女子大	1	0	1	0	1	国際基督教大	0	0	0	0	2	
神戸大	4	1	5	4	5	日本大	1	3	4	3	6	
広島大	7	3	10	8	8	法政大	1	3	4	5	14	
岡山大学	1	2	3	0	3	明治大	11	9	20	16	23	
山口大	0	1	1	1	0	明治学院大	2	0	2	1	0	
福岡教育大	2	0	2	4	1	立教大	0	4	4	6	6	
九州大	21	5	26	28	46	早稲田大	4	2	6	12	26	
九州工業大	3	3	6	4	5	津田塾大	0	0	0	4	2	
佐賀大	1	3	4	2	2	同志社大	5	10	15	10	14	
長崎大	5	3	8	6	13	立命館大	3	25	28	26	51	
大分大	1	1	2	1	1	関西大	1	6	7	3	3	
宮崎大	3	3	6	5	7	関西学院大	0	7	7	3	5	
鹿児島大	11	4	15	19	25	西南学院大	24	20	44	32	59	
熊本大	文	6	1	7	11	9	福岡大	3	9	12	19	37
	教育	15	5	20	29	28	産業医科大	0	1	1	1	4
	法	9	7	16	9	17	その他私立	64	66	130	122	126
	理	9	4	13	2	5	私立大計	137	198	335	294	419
	医・医	6	3	9	5	1	防衛大	2	3	5	4	7
	医・保	11	3	14	15	13	航空保安大	0	0	0	0	1
	薬	2	3	5	5	8	その他準大学	0	0	0	1	0
工	21	4	25	19	37	準大学計	2	3	5	5	8	
計	79	30	109	95	118	短期大学計	3	0	3	2	0	
その他国立大	6	4	10	8	8	専門学校計	13	1	14	10		
国立大計	160	75	235	214	276	海外留学計	1	0	1	0		



▲職員室の廊下にある大学等の合格者を掲げるボード。今年度もたくさんの合格者名で埋め尽くして欲しい。



▲卒業式で肩を組み覺歌を大熱唱。現役生として最後の時、それは卒業生としての第一歩を目の前にした瞬間でもある。

覺女の心情

女子生徒が少なかった時代の話

コラム①先輩は後輩?!
後輩女子は先輩女子に挨拶をしなければならない、という申し伝えがあった。それで在学中は「制服」を見たらとりあえず挨拶することになっていた。しかし卒業後のある日、「先輩こんにちわ〜」。ギョ!面まで割れてた。

コラム②前衛女子のワケ
クラスマッチには必ず女生徒が入るべし、というルールがあった。バスケットでは女子に覆いかぶさるとファウル。バレーボールでは前衛の端に女子が。そうでなくてもわざわざ女子を狙い撃ちする男子はいなかった…はず。

(記) S46・さちこ

濟々覺の1年

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	
卒業式 高校入試 クラスマッチ	創立記念式典 マラソン大会	大学入試センター試験	冬季課外 武道大会・ダンス発表会	修学旅行(1年) 修学大会・ダンス発表会	芸術鑑賞 大学出張講義	学年別遠足 職業別講演会	文化祭 職業別講演会	夏季課外 勤労体験学習(1年) 集中学習会(3年)	クラスマッチ 夏季課外	高校総体 高校総体文祭	同心会総会 恩賜記念大運動会	入学式 新入生宿泊研修

主な年間行事予定

編集担当
野田 研一 (S50)
山下三美子 (H6)

マラソン大会

誰もが「きつかったあ」という思い出しかない(笑)マラソン大会。昔は竜田山往復とかでしたが、今は運動公園横のKKウイング周辺を走ります。同心会の保護者の方も応援に加わりますよ。



運動会

以前は応援団も地味(?)でしたが、今や長ラン、短ランに刺繍入り(結構刺繍代高いんですよ)。



文化祭

S50年くらいから、文化祭で「うたの祭典」という催しが始まり、生徒に大受け!そこから10年くらい続いていたようです。今は学内限定「中夜祭」があります。



▲昭和51年度のYoung うたの祭典

入学式

最近は付き添いの保護者にもお父さんが増えてきました。



今どうなってるの?
昔はこうだった!

濟々覺マメ知識



修学旅行

一昔前は奈良の薬師寺でお説教を聴きました。今は東大訪問があります。



卒業式

今は男子も女子もキナ線帽子(学校から貸し出し)を持って出席し、最後に皆で帽子投げがあります。



クラスマッチ

昔は「外で」バレーボールだったんですね。今も水泳やサッカー、他に武道やダンス大会も行われています。



食堂

昭和50年から63年くらいまで、南校舎の端に食堂がありました。メニューはうどん、ラーメン、カレー。皆、かきこんでます。



学舎トピックス SCHOOL TOPICS 平成23年度 熊本県高等学校
総合文化祭

今年の全国高等学校総合文化祭は、福島県での開催です。
 今回は、東日本大震災の関係で一部予定通り開催することができなくなり、本賞視
 聴覚部が出演する放送部門も作品審査のみとなっています。

全国総合文化祭出場おめでとう！

視聴覚部（テレビドキュメント部門） 作品タイトル「九州新幹線全線開通！」

ステージ部門		展示部門	
部門・部活動	内容等	部門・部活動	内容等
合唱部	合同合唱「大地賛頌」ほか	写真部	作品展示
箏曲部	「つち人形」	書道部	作品展示
吹奏楽部	「モンタニヤールの詩」 「宝島」	美術部	作品展示
視聴覚部 (放送)	ビデオメッセージ 「九州新幹線全線開通！」	華道部	作品展示
弦楽部	チャイコフスキー「弦楽セレナーデ第1楽章」 葉加瀬太郎「情熱大陸」	茶道部	お点前披露
		化学部	研究展示（アルギン酸ナトリウムによる膜の形成とその性質）
		地学部	研究展示（県内で発生した地震とリニアメントの関係を探る）
		囲碁・将棋 同好会	将棋団体戦 将棋個人戦



▲各年代で演武競演

挨拶する大田黒
浩一会長（S51）

演武に見入る
現役生

今年の「済々黌援團OB会総会・懇親会」は6月11日、熊本交通センターホテルで開催。昭和30年代卒から現役生まで一堂に会しました。この日は大雨洪水警報が出たにもかかわらず長崎から5時間かけて駆けつけた参加者もいました。懇親会では、各年代の演武が同時に披露されます。形は同じように見えても先輩から後輩へと伝わっていく中で少しずつ変化していきます。その変化こそが、長い歴史を刻んでいる証拠になります。ある先輩の言葉「演武は、気持ちを形として表現したものだけ、三綱領の精神があれば形が違っても構わない」といいます。現役時代には恐れられていたであろう各團長たちもOBとなりこやかに談笑し合っています。来年OB会は20周年を迎えます。100人入る会場をいっぱいになります！！
 (石崎淳一 H17)

済々黌援團OB会

部活OB会連絡先一覧

(部活OB会を掲載しています。他に活動しているOB会がありましたら、tashi@seiseiko-dosokai.gr.jp または096-345-3002 (多士会館)にご連絡下さい。)

名称	連絡担当	TEL	メールアドレス	OB会HP
応援同好会	勝久 卓治 (S63)	090-8227-9761	jim@seiseiko-ouendan.com	http://seiseiko-ouendan.com
サッカー部	堤 敏郎 (H元)	096-364-9251 (職場)	seisei_sc@yahoo.co.jp	http://www.seishukai.net
野球部	田浦 真光 (S50)	096-375-2000 (職場)	—	—
空手部	布田 悟 (S46)	096-232-3321 (布田町立選手寮)	—	—
水球部	片桐 英夫 (S58)	096-353-2111 (職場)	—	—
ハンドボール部	吉村 昌展 (S63)	090-4474-7020	robo-yosy@ezweb.ne.jp	—
バスケットボール部	山口 元成 (H元)	090-8410-4828	—	—
ラグビー部	山中 農 (S28)	096-352-2868 (自宅)	—	—
柔道部	近藤 享 (S40)	096-382-3503 (自宅)	—	—
弓道部	山田 耕司 (S54)	090-3732-1879	info@ko-kyu-kai.com	http://ko-kyu-kai.com
剣道部	都 祐一 (S43)	096-361-3081 (職場)	—	—
陸上競技部	永廣 憲一 (S42)	096-353-3131 (FM熊本内)	—	—
バドミントンOB会	松田 克彦 (H5)	090-8839-8992	09088398992@docomo.ne.jp	http://hp.aaanet.jp/~seisei/



学舎トピックス SCHOOL TOPICS 平成23年度 熊本県高等学校
総合体育大会

今年のインターハイは、北東北での開催です。
 九州まではなかなか伝わってこない震災後の様子を競技の合間に見て感じて、帰ってきて母の友達に伝えてくれたらと願っています。

インターハイ出場おめでとう！

男子ソフトテニス部 (個人)	8/5~7 新青森県総合運動公園テニスコート 山口貴弘くん (3年)、益田侑弥くん (2年)
空手部 (個人組手)	7/30~8/2 青森県十和田市総合体育センター 清田翔吾くん (3年)
陸上競技部	8/3~7 岩手県北上市北上総合運動公園北上陸上競技場
円盤投げ	松崎彬人くん (3年)
400M走	長浦えりかさん (3年)
1600Mリレー	吉岡菜佑子さん (2年)、長浦えりかさん (3年)、 蒲原知紗さん (2年)、田中みずほさん (3年)

九州大会出場		
男子ソフトテニス部	7/15~17	宮崎県総合運動公園庭球場
空手道部	7/8~10	福岡県久留米市総合スポーツセンター
陸上競技部	6/16~19	鹿児島市鴨池陸上競技場
男子ボート部	6/17~19	長崎県長崎市琴海形上湾ボートコース
水泳部	7/16~18	鹿児島県鴨池公園水泳プール
水球部	6/11~12	福岡県立総合プール

男子バドミントン部	団体戦 2回戦進出 個人戦 (ダブルス) 最高3回戦進出 (シングルス) 最高4回戦進出
女子バドミントン部	団体戦 2回戦進出 個人戦 (ダブルス) 最高3回戦進出 (シングルス) 最高3回戦進出
男子バレーボール部	3回戦進出
女子バレーボール部	2回戦進出
男子弓道部	団体戦 団体6位 個人戦 入賞者なし
女子弓道部	団体戦 予選敗退 個人戦 入賞者なし
男子剣道部	団体戦 2回戦進出 個人戦 最高2回戦進出
女子剣道部	団体戦 2回戦進出 個人戦 最高2回戦進出
男子空手道部	団体組手 4位
女子空手道部	団体組手 1回戦敗退 個人形 3回戦進出
男子柔道部	個人戦 (90kg級) 3位
男子硬式テニス部	団体戦 2回戦進出 ダブルス 最高2回戦進出 シングルス 最高3回戦進出
女子硬式テニス部	団体戦 ベスト8 ダブルス 最高ベスト8 シングルス ベスト16
女子ボート部	シングルスカル 3位
男子卓球部	団体戦 3回戦進出 個人戦 ダブルス 最高3回戦進出 シングルス 最高2回戦進出
男子ハンドボール部	ベスト8
女子ハンドボール部	ベスト8
男子バスケットボール部	2回戦進出
女子バスケットボール部	1回戦敗退
女子ソフトテニス部	団体戦 3位 個人戦 最高ベスト16
男子サッカー部	ベスト16
ラグビー部	3位

西暦	和暦	月日	年齢	出来事	歴史
1854	安政元年	1月23日	0歳	佐々友房先生誕生。母川端氏で御小姓組の佐々睦助の3男として内坪井に生まれた。幼名眞盛の時次、号は漢州のち克堂。	歴史
1861	文久元年		7歳	藩校時習館に入学。	史
1863	慶応3年	10月11日		池田屋騒動で肥後勤王党の宮部鼎蔵自決。	
1864				大政奉還。	
1869	明治2年	1月5日	15歳	時習館の同輩生となる。	
1870	明治3年		16歳	時習館の同輩生となる。	
1871	明治4年	7月4日	17歳	時習館の同輩生となる。	
1873	明治6年	2月	19歳	私塾「維新館」を開塾。	西郷の没落
1874	明治7年	2月	20歳	「佐賀の乱」への参加を志望の同志と謀っていたが先陣に軽率な注参され未遂。	西郷の没落
1875	明治8年	10月	21歳	初の上京、水戸学を学ぶ。	西郷の没落
1876	明治9年	10月26日	22歳	藩校時習館の「時習館」を閉校。	西郷の没落
1877	明治10年	1月	23歳	池田屋十郎と共に、西郷に参兵を促すべく鹿児島へ。	西郷の没落
1878	明治11年	5月3日	24歳	大島屋地蔵へ移住。	西郷の没落
1879	明治12年	1月20日	25歳	松出屋に、砂取の佐々家に戻る。	西郷の没落
1880	明治13年	12月	26歳	「同心学舎」開校。	西郷の没落
1881	明治14年	1月	27歳	政治結社「紫雲会」設立。	西郷の没落
1882	明治15年	2月11日	28歳	「同心学舎」開校。	西郷の没落
1883	明治16年	5月21日	29歳	「紫雲会」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1884	明治17年	3月21日	30歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1885	明治18年	8月7日	31歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1886	明治19年	5月13日	32歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1887	明治20年	10月10日	33歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1888	明治21年	5月	34歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1889	明治22年	1月	35歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1890	明治23年	3月	36歳	九州日日新聞第3代社長に就任。	西郷の没落
1891	明治24年	7月1日	37歳	第一回衆議院議員選挙の当選。	西郷の没落
1892	明治25年	10月	38歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1893	明治26年	4月	39歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1894	明治27年	4月	40歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1895	明治28年	4月	41歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1896	明治29年	4月	42歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1897	明治30年	3月13日	43歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1898	明治31年	1月	44歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1899	明治32年	4月	45歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1900	明治33年	4月	46歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1901	明治34年	6月	47歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1902	明治35年	12月	48歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1903	明治36年	2月	49歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1904	明治37年	10月16日	50歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1905	明治38年	9月22日	51歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1906	明治39年	9月28日	52歳	「清々堂」開校。	西郷の没落

「佐々友房物語」「佐々家買え書」(S37卒 佐々瑞雄氏)より

濟々堂歴史資料館への招待

佐々友房先生年表

西暦	和暦	月日	年齢	出来事	歴史
1854	安政元年	1月23日	0歳	佐々友房先生誕生。母川端氏で御小姓組の佐々睦助の3男として内坪井に生まれた。幼名眞盛の時次、号は漢州のち克堂。	歴史
1861	文久元年		7歳	藩校時習館に入学。	史
1863	慶応3年	10月11日		池田屋騒動で肥後勤王党の宮部鼎蔵自決。	
1864				大政奉還。	
1869	明治2年	1月5日	15歳	時習館の同輩生となる。	
1870	明治3年		16歳	時習館の同輩生となる。	
1871	明治4年	7月4日	17歳	時習館の同輩生となる。	
1873	明治6年	2月	19歳	私塾「維新館」を開塾。	西郷の没落
1874	明治7年	2月	20歳	「佐賀の乱」への参加を志望の同志と謀っていたが先陣に軽率な注参され未遂。	西郷の没落
1875	明治8年	10月	21歳	初の上京、水戸学を学ぶ。	西郷の没落
1876	明治9年	10月26日	22歳	藩校時習館の「時習館」を閉校。	西郷の没落
1877	明治10年	1月	23歳	池田屋十郎と共に、西郷に参兵を促すべく鹿児島へ。	西郷の没落
1878	明治11年	5月3日	24歳	大島屋地蔵へ移住。	西郷の没落
1879	明治12年	1月20日	25歳	松出屋に、砂取の佐々家に戻る。	西郷の没落
1880	明治13年	12月	26歳	「同心学舎」開校。	西郷の没落
1881	明治14年	1月	27歳	政治結社「紫雲会」設立。	西郷の没落
1882	明治15年	2月11日	28歳	「同心学舎」開校。	西郷の没落
1883	明治16年	5月21日	29歳	「紫雲会」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1884	明治17年	3月21日	30歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1885	明治18年	8月7日	31歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1886	明治19年	5月13日	32歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1887	明治20年	10月10日	33歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1888	明治21年	5月	34歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1889	明治22年	1月	35歳	「紫雲学舎」から「紫雲学舎」に改称。	西郷の没落
1890	明治23年	3月	36歳	九州日日新聞第3代社長に就任。	西郷の没落
1891	明治24年	7月1日	37歳	第一回衆議院議員選挙の当選。	西郷の没落
1892	明治25年	10月	38歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1893	明治26年	4月	39歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1894	明治27年	4月	40歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1895	明治28年	4月	41歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1896	明治29年	4月	42歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1897	明治30年	3月13日	43歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1898	明治31年	1月	44歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1899	明治32年	4月	45歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1900	明治33年	4月	46歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1901	明治34年	6月	47歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1902	明治35年	12月	48歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1903	明治36年	2月	49歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1904	明治37年	10月16日	50歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1905	明治38年	9月22日	51歳	「清々堂」開校。	西郷の没落
1906	明治39年	9月28日	52歳	「清々堂」開校。	西郷の没落

佐々友房物語 第一章

「友房の幕末・維新」
 安政元年(1854年)正月23日佐々友房出生。細川藩士で御小姓組の佐々睦助の三男として内坪井に生まれた。

内坪井は池田屋手永に属し、新旧の坪井川に囲まれた中州のような地形で、細川藩の中級武士の屋敷町である。

党派は違つたが横井小楠、宮部鼎蔵等も内坪井の郷友である。友房と小楠の生家は道を挟んで向かい合った。

当時の城下には藩士の子弟の居住する地域毎に「連」と呼ばれる郷党があり、通町連、千反畑連、坪井連、山崎連、京町連、高麗門連、竹道連、水道連、本山連、春日連の12連の連が挙げられる。

各連では月に1回程度集会を開き、論議の輪読を行つた。鍛錬のため郊外へ遠足を行つたりして、結束・団結力は非常に強固なものであった。

文久元年(1861年)藩校時習館に8歳で入学。明治2年(1869年)時習館の居寮生となる。

藩士の子弟は8歳で藩校時習館に入学し、16歳で講堂生となり、さらに前途有望な秀才と門閥の子弟約25名が選ばれ、3年間藩費による寄宿舎生活を過ごした。

明治3年(1870年)藩政改革により、時習館廃止となり、林校園の原道館に入塾する。幕末の熊本は学校党(保守佐幕派)、勤王党(尊王攘夷派)、実学党(藩政改革派)が三つ巴で対立抗争していた。

明治3年5月藩知事(旧藩主)細川昭邦が辞任、弟護久が藩知事に就任し人事刷新を断行。学校党、勤王党の首脳陣は全て免職。横井派の実学党が藩政を握り、藩政改革が一気に進み始めた。

友房は河上彦斎や太田黒伴雄などの「春日寺塾」、国友古照軒の「国友塾」、桜田惣四郎の「桜田塾」にも塾生として名を連ねていた。

明治6年(1873年)内坪井に兄干城の名を借りて私塾「惜陰舎」を開塾。

明治3年に藩政を握つた実学党は、勤王党弾圧を積極的に行い、河上彦斎や木村弦雄、古荘嘉門等を投獄、後に河上は正式尋問もなく斬罪となつた。

明治6年に大久保利通内務卿の腹心安岡良亮(土佐出身)が、白川(熊本県)権令として赴任。県庁から実学党の人々を追い出した。安岡は当時の野党である学校党、勤王党、敬神党や宮崎八郎の民権党からも広く人材を登用した。

明治7年2月 江藤新平の佐賀の乱に成りようとしたが、郷党の同志と謀つていたが先輩に軽率を注意され未遂に終わった。

同年4月台湾征伐に義勇隊を編成したが、先に和議が成りこれも未遂に終わる。

同年10月 白川県より「等外二等出仕」の命。しかし今アジアの情勢は険悪でこれをじつとして手をこまねていることはできないとして安岡権令の慰留にもかかわらず、わずか1ヶ月で辞表を提出した。

明治8年初の上京。ときに佐々友房22歳。明治天皇の侍従となつていた叔父の待次郎宅に身を寄せ、更に水戸にも游学。5ヶ月間水戸学を学ぶ。

明治9年10月神風連の乱。友房は兄の干城とともに「時宜に適せず、大義名分のない拳兵である」として、各郷党の主だった者に連絡をとり、進退を誤る者が出ないよう手配した。干城は北岡の細川家嫡男護成を警護し、宇土郡の松合村にある宇土細川家別邸に無事送り届けた。

明治10年1月友房、池田吉十郎と共に、西郷に参兵を促すべく鹿児島へ赴く。

村田新八に「いまだ機は熟せず、いま動けばいざ知らぬに良民を苦しめる考えているので、心配するな」と諭され帰郷する。23歳の友房は一戊辰の役の時、肥後人は優柔不断で、天下の笑いを食った。今何をしなければ、何の面目で天下に立つことができようかと池田に迫つたが、池田は君たちは若くて血気にはやるが、事後收拾の方策がなくては、仮に西郷が起つてもやたら付和雷同しないか論じたという。

同心学舎 名前の由来

開校するとなれば、まず必要なのは校名だ。関係者が集まったところで鳩首協議した結果決まった名前が「同心学舎」である。これは次のようないきさつで決まったという。

最初は皆で建てたという意味で「共立学校」の案が出た。

「せつかくばつてん、そらいかん。同じ名前前の学校が熊本にだけとるばい」

「そんなら同心学校な、どぎやんな」

「ばつてん、学校でいうとは、建物にくらべち、ちいっと大げさすぎるごたる」

「同心塾ですとも、なんか古めかしもんなア」

「そぎやんいうなら、学校と塾の間ばつて同心学舎なら、どうだるか」

「おお、そらええバイ。よか名前でのけた」

「同心学舎」→同志の堅い結束でつくり上げた学校という意味だったろうか。佐々は「濟々堂歴史」の中で「衆議して同心学舎と名付く。けだし二人同心其利断金の義に取る」と記している。このことばの出典は、中国の易経。

「金属をも切断するほど友情のきわめて厚いこと」と、広辞苑に見える。

だが「同心」の由来については「そんなに深く考えたわけではないのだ。古典と一致したのは全くの偶然」という話もある。その説によると、開校二年後、ある人が祝辞の中で易経の字句を引用して、よくぞ名付けた、とほめ上げたから皆は驚いた。

「そぎやん意味のあつたつバイね。こるこそ「ケガの功名」たいい」

濟々堂物語(西日本新聞社発行)より引用



【内坪井】
 熊本城の北東側に位置する中級武士の屋敷町であった。熊本中央高校の辺りにあった横井小楠の屋敷の向かい側に佐々家。夏目漱石旧居の並びに宮部鼎蔵の屋敷があった。



【佐々友房生誕の地】
 熊本中央高校裏門の道向かいに記念碑が建っている。

濟々堂 名前の由来

漢学者友枝庄蔵(当時忍濟学舎舎長)が詩経「濟々タル多士、文王以テ寧シ」から濟々、「校」の古字である「翼」を付けた。

濟々タル多士：人格の優れた立派な人物が多くいる様子。

「士」は学問教養に優れた有徳の人物を指し、「濟々」は威儀のある様と数多く盛んな様の意味がある。

「文王(周の武王の父)の徳に導かれて徳を備える賢者が集まった。周の幹となつて永く周を支えるであろう」

東京 運動部OBがまとめ役に

加藤榮護会長 (S25)

東京は斉藤惇新会長 (S33) に次をやってもらいますので私は明日までの会長でございます(笑)。8年前、田島義博学習院院長 (故・S24) から引き継ぎ以来お世話になりました。東京では運動部OBがまとめ役を良くやっています。ゴルフやラグビーは熊高とOB対抗戦もしています。同窓会には88歳ジープこと藤田八郎先生も来て、昨年も元気に2次会までいきましたよ。私もこれからも変わらず応援していきます。

福岡

組織を広げ、合言葉は楽しく

永田哲哉事務局長 (S36)

組織の徹底と若い人や女性を狙い「学生会」「平成の会」「レディース会」作りで成功の兆しに手応えを感じています。僭越ですが「日本一の楽しい同窓会にしよう」が合言葉。全登録は千人位ですが返信が450位で参加が260名ですから立派だと思います。組織の骨格は出来て来たので、血や肉を付けるのが私達の仕事だと思っています。

鹿児島 濟々鬘の名でつながる絆

吉武和臣会長 (S28)

鹿児島には相当な数がいると思いますが、今の学生は横の連絡があまりないようで私には謎です(笑)。若者に口を出すなど言いますが、口を出さず先輩後輩の絆はどこにあるかと思えますね。今は鹿大大学院生で元応援団員の子がおり鬘歌やエール全部やってくれます。昨年はOBでないが元先生が、自前の濟々鬘法被まで着て参加されるという非常に嬉しい事もありました。

関西 就職激励会や学生会費優遇

北野伸也会長 (S32) 斉藤登副会長 (S40)

昨年森会長 (故・S26) から引き継ぎました。近畿2府6県がエリアです。就職激励会をしたり半分いる女子も大事にしています。会費面の女性優遇を考えましたが女性の方が飲みますから(笑)。学生は安くしていますよ。学生グループから協力者を見付け幹事にするなど幹事長以下で更に具体的に活動をとっています。

東海

少人数だが家庭的に

北村文弘会長 (S36)

エリアは愛知、三重、岐阜、静岡の4県ですが、参加があるのは現在愛知のみ30人弱です。個人情報保護とかで東海地区進学の方との連絡は皆無なのが悩みのタネですが、例外的に何かを聞いてほっとやってくださる方もいます。歓迎です。同じメンバーですから先輩風もなくなっています(笑)。良く言えば家庭的にやっています。

宮崎 次世代参加に期待を寄せる

黒木博文幹事 (S47)

私共「宮崎多士会」はこの1年半は口蹄疫や新燃岳の噴火の事があり開催を延ばしていましたが、会もあまり空くのも良くないと栗林忠信会長 (S38) と相談して3月に計画しました。平成卒がやっと1、2名という状況ですが、次世代の方にも参加頂ければ楽しい会だと思っています。

東京

5/15在京同窓生
新人歓迎会
濟々鬘東京同窓会



▲元気一杯な新人たち!

今年で6回目となる濟々鬘東京同窓会の新人歓迎会が平成23年5月15日に開催されました。新人歓迎会は毎年前年卒業の学生が幹事となり今年も平成22年卒の学生が準備をしてくれました。今年も東日本大震災の影響で例年より1ヶ月遅い開催となり、新人達も上京して来ることに不安を持っていましたが、例年と同じように新人は元気一杯で社会人同窓生を圧倒していました。今年も平成23年卒26名、平成22年卒11名、在京学生と社会人22名の合計69名が集まりました。(酒井真人 S54)

東海

5/21家庭的雰囲気
和やかに
濟々鬘東海地区同窓会



▲皆、和気あいあい!

H23年5月21日(土) 12時より名古屋国際ホテルで、第34回濟々鬘東海地区同窓会を開催しました。昨年同様、関健二事務長、岩永宏介教頭先生を来賓に迎え、総勢20名で紅一点格闘家、長野亜矢さん(H元)を同席し、家族的な雰囲気の中かつ盛大に行われました。昨年からの目玉である「フリースピーチ」では吉野仁先輩(S31)が「私の濟々鬘時代」を熱弁され、赤穂振りには全員が爆笑!一人一人が遠い青春時代を垣間見たようでした。新人紹介、お久しぶり紹介と続き、井川隆明さん(S47)の音頭で鬘歌斉唱、恒例の関事務長のエール発唱、最後は岩永教頭の一本締めで、めでたく閉会となりました。来年から5月の最終土曜日とします。東海地区の皆様、友人に声をかけて是非御参加下さい。(事務局 高宗洋介 S40)

福岡

在福学生約100人が登録
濟々鬘同窓会
福岡学生会



▲今から福岡で頑張るぞお!

「福岡学生会」は福岡に在学中の学生の集まりです。平成19年〜23年卒の約100名の学生が登録しています。活動内容としては、新入生歓迎会や食事会、送別会などを行っています。今年の新入生歓迎会ではボウリング大会、食事会を行い、20名の新入生が参加してくれました。ボウリング大会では福岡同窓会の先輩方から寄付して頂いた景品があったり、食事会では学年問わず話に花が咲いたり、とても楽しい時間でした。これからも福岡学生会として福岡同窓会、そして濟々鬘を盛り上げるお手伝いができるような頑張りたいと思います。(後藤ゆり H20)

八代

8代春季総会に50人集つ
八代濟々鬘同窓会



▲終始笑顔の参加者。最前列左5人目が福田前会長、二列目左2人目は伊藤新会長

昨年60周年を迎えた「八代濟々鬘同窓会」。6月9日、八代市荻原町1丁目の小松で50人が出席して春季総会が開催された。3期6年務めた福田民男会長(S40)からバトンを受けた伊藤俊昭新会長(S42)が「伝統ある八代ならではの良さを受け継ぐ」と挨拶をした。同会では指名がなくとも初参加者が自発的に自己紹介するのが恒例だが、先輩はどっち?と顔を見合せながらスピーチに立つのも楽しく、ユーモア交えた話に会場も沸いた。懇親会は歓談絶えず盛り上がり、最後は肩を組み鬘歌大合唱で元気を振るったひとときであった。(坂井木綿子 S60)

広島

5/21念願の母鬘訪問と
大同窓会参加
濟々鬘広島同窓会

濟々鬘広島同窓会(吉田正磨会長、S10)は5月21日、母鬘と大同窓会へ訪れた。一行15人はJR九州の新幹線「さくら」で広島駅を10時32分発、12時19分熊本駅に到着し母鬘へ。徳永教頭の出迎えを受け、新本館や歴史資料館をじっくり見学した。その後は中西鬘長を表敬訪問し自由散策。当日は修猷館高校と野球部定期戦の

真つ最中。グラウンドを訪れると吉田会長(94歳)にとつて剣道部一学年後輩の高木正男氏(93歳)も観戦中。いつもキャリヤー最年長の高木氏も「先輩」と驚き最敬礼。二人は席を並べしはし現役生を応援した。いくつもの偶然を重ねた大先輩同士の再会に気持ちと和む光景であった。夜は約900人が集った大同窓会では、広島代表者として参加者最年長として乾杯の音頭をとり元氣な掛け声で会場を沸かせた(吉田に紹介)。翌日は本丸御殿・城郭苑観光や各自の帰省を果たすなど、故郷でのひとときを満喫した一行であった。(広報委員会)



▲新本館前で



▲吉田会長は自分の「集合撃剣上衣」を持参。その後奇贈



▲S11高木正男さんとS10吉田会長が偶然の再会



▲広島一行として念願の大同窓会へ出席



記録編集担当
中野和光 (S50費)
坂井木綿子 (S60)

今回は上記6地区の座談会、ほんの一部のご紹介です。各報告のみならず様々な母鬘への熱いを語り合いました。

新会長・原恵亮(H4卒)からのご挨拶

新しく会長になりました原です。先輩方が培い繋いでこられた伝統を後輩に繋いでいくために、幹事の皆さんと一緒に頑張ってまいります。

さる6月4日に総会及び懇親会を開催しましたが、出席者約50名と多くの同窓生に集まっていただきました。これから1年、就職相談会や青年会独自のイベント等を通して参加者を増やし、会員の縦・横の繋がりを深めていきたいと思っております。青年会の活動をより意義のあるものにするのが済々巒同窓会全体の活性化にも繋がると思っておりますので、青年会会員の皆様はもちろん、同窓会の先輩方もご協力の程宜しくお願いいたします。頑張りまーす!



▶同窓会会長からの言葉を書く参加者



▶会場は下通ODA2階・米乃蔵

済々巒青年会

予告 同窓生が
アドバイスする!!
就職相談会実施

8月20日
13時30分開会
多士会館にて

※対象は主に大学3年生ですが、どなたでも参加できます。同窓会事務局へお申し込み下さい。

済々巒青年会—40歳以下の同窓生は全て青年会会員です

青年会は40歳以下の同窓生の交流と母體への恩返しのための活動を行っています。

近年、女子学生並びに女性の卒業生も増えてきたこともあり、H22年度は、子育て世代のOGが青年会活動に参加できるよう、昼のイベント(H22・9月・サントリービール工場見学&パークビュー会、H22・10月、H23・5月・子育て支援会)を開催しました。



▲子育て支援会



▲サントリービール工場見学

第1回子育て支援会は、多士会館3Fで行いました(OB3人、OG14人、子供14人参加)。参加者の卒業学年は様々でしたが、すぐお互い打ち解けられるのが済々巒の良いところ。すっかり気分は学生時代に戻り、OGは思い出話や近況報告など、話に花が咲いていました。初対面で恥ずかしがっていた子供達も、会の終わる頃には皆でドッジボールやお絵かきを楽しんでいました。最後に、不要になつたおもちゃや洋服の交換会を行いました。



▲忘年会



▲就職相談会

卒業以来済々巒を訪れていなかった青年会員は、久々に母體を訪ねられてよかったです。新しくなつた本館前で写真を撮りました。

第2回目子育て支援会は、坪井川緑地公園のひごっこジャングル内で行いました(OB2名、OG18名、子供25名参加)。第1回目の反省省を踏まえ、子供達がいっしょに走り回れるところで(大人がゆっくり話せるところで)という思いから、お弁当を用意してピクニックへ。晴天に恵まれ、子供達はジャングルジムで遊んだり、蛙やカメを捕まえたり、写真を撮つてくれたりと前回同様、皆で仲良く楽しく遊んでいました。卒業生同士で結婚している夫婦が2家族参加されており、立派なイクメンぶりでしたよ!

このほかにも、大学生の会員を対象とした就職相談会(OB・OG75名、学生45名参加、H22・8月、於多士会館)や、青年会員の交流の場としてのパークビュー会(OB・OG28名、子供17名参加、H22・9月、於サントリービール工場)や忘年パーティ(OB・OG69名参加、H22・11月、於ホテルニュースカイ)などのイベント、多士講座のお手伝い等、様々な活動をしてまいります。

世代を超えて交流できるのが済々巒の良いところです。20代の参加が少ないように思えます。ちよつと先を歩んでいる人生の先輩と気軽に話ができるこの会を利用しない手はないですよ!奮つてご参加下さい。

H22年度会長 藤本美由紀 (H3卒)

環境にめぐまれて

九州旅客鉄道(株)総務部法務室 轟 威一郎 (H7)

「何をしたか」よりも「あの時間を過ごした」ことに意味があった。

今から19年前の平成4年、私は、済々巒に入学しました。在学中、形に残せたものはこれと言ってありませんが、喜怒哀楽がぎゅぎゅと詰まった3年間は、少々大げさですが、生きていくうえでのエッセンスが凝縮されていたように思います。部活の先輩に怒られて地べたに正座させられた時のすねの痛み、昼ごはんの時の教室に充満した弁当のにおい、体育で雨上がりの立田山を走った時の心臓が破れそうな中での清々しさなど、不思議なくらいはつきりと覚えています。多感(?)な時期に、済々巒という刺激的な場で過ごせたことは、幸せでした。

現在、社会人生活も10年が過ぎました。仕事でも、相変わらず、形に残せるようなことは何もしていないのですが、最近、一つだけ、高校時代と同じような感覚を持ったものがあります。九州では、今年3月に九州新幹線と新博多駅ビルが開業しました。私は、幸運にも、これらの事業に仕事として直接に係わる事ができました。毎日がとても刺激的で、職場が一丸となって目標に向かう大きなエネルギーに、どこか高校時代の部活動生活に近いものを感じました。未だ多感(?)な時期に、またも刺激的な場に身を置くことができ、さらに自分を成長させることができたと思います。

成長の進度にあった環境にめぐまれることは、最良の経験だと思います。自分の子どもたちも、あの時間を過ごしたことになるように、意味があった、と思えるようなものに出会ってほしいと思います。



NHKのお天気お兄さん

気象予報士 斉田季実治 (H6)

昨年の春まで、NHK熊本で「さいたまさんの金曜天気」というコーナーに出演していました。「NHK=まじめ」という印象が強いのでしょうか。久しぶりに再会する友人や先生たちの記憶の中の私までが「まじめ」に書き換えられていて、得をした気分です。



済々巒に通っていたころ、授業中に空をよく見上げていました。天気を予想するというよりは、「雨が降ればラグビーの練習が楽になるのに」という雨乞いに近いものでしたが、空や海、山などの自然に目を向けることは子どものころから好きでした。

机上の勉強よりもフィールドワークが好きで、練習船を保有していた北海道大学水産学部に進学。航海を経験するなかで「天気」に特に興味を持ち、在学中に気象予報士を所得しました。北海道のテレビ局に就職し、報道記者として台風や地震などの取材をしていましたが、専門的な立場でメディアに関わりたいてと考えて退社。気象の道を、本格的に歩み出したのは29歳のときでした。

現在は、東京のNHK本社で気象キャスターをしています。全国放送は午前0時からのニュースに出演していますので、夜更かしした際はご覧ください。妻と息子を熊本に残して単身赴任のため、週末はほぼ熊本に戻っています。気象・防災・環境に関する講演や出前授業も行っていますので、声をかけて頂けると幸いです。

黄線烈伝

130周年記念事業「130」

来たる平成24年、本巒は創立130周年を迎えます。

周年記念事業を実施するにあたり、過去2年間にわたって大同窓会、代表評議員懇親会、アンケートを実施し、内容検討を重ねて参りました。その結果、大同窓会への各地区同窓会や分校関係者の招待、拡大版の多士講座開催、記念パレード、同窓会名簿作成、熊日新聞特集記事掲載、他各種広報事業に加え、本館新築記念としての巒門建立等の事業が予定されており、同窓生の皆様に充実した事業展開を行うため、同窓生の皆様に支援助・ご協力をお願いする場合がございますので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

同窓会名簿作成事業開始

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、済々巒創立130周年記念事業として10年ぶりの同窓会名簿の改訂発行が平成22年度第2回代表評議員会において承認されました。

つきましては、名簿作成のための調査ハガキをお届けしますので内容をご確認のうえ返信いただきますようお願い申し上げます。なお作成作業において調査・編集・印刷に際しては信用ある業者に委託しております。

同時に名簿の購入、広告掲載につきましても絶大なご協力をお願いいたします。

個人情報保護の観点から適正に取組むと同時に、同窓生がお互いの消息を知り協力や連携を図り、同窓会や母體の発展に寄与することも有用であると考えます。

会員の皆様にはご理解をいただきまして、同窓会の絆を強くするためにご協力の程をよろしくお願いいたします。

済々巒同窓会 会長 井 薫 (S32)

編集後記

古希になった今年、母體同窓会からの呼びかけがあり、何も分らぬまま幹事(広報・組織)となり、ふと見渡せば小生は最高齢に近い存在。それでも何かお役に立ちたいの思いで奮闘から本誌を創っています。頼もしい後輩諸氏を見守るの私の役目です。

鹿光 秀明 (S35)

今年役員改選、繰返って再度広報委員に配属され、新しい先輩方、後輩方と知り合つたことが、楽しく広報誌を作ることが出来たこと、今年の出来はいいか? 野田 研一 (S50)

今回の一番苦手な広報委員を拝命し不安でしたが、坂井委員長から6地区同窓会座談会、テラフの書き起こしを依頼して安堵しました。しかしいざ始めると話の内容が自分からずすトレスが充満し、1時間かかるとは、やっとなり、坂井委員長が立派なページにまとめて頂き、また話の内容から済々巒の変遷について勉強させて頂き本当に嬉しく思っております。

中野 和光 (S60)

今回は、佐々先生の軌跡を改めて調べてみて、各方面に偉大な実績を残されたことに驚愕しました。年表を作成しながら今の自分と比較してしまい、何も成し遂げていない自分を反省するばかりです。今はただこの済々巒の歴史を分かりやすい形で同窓生の皆様にお伝えしつつ、これから何をすべきかを常に考えていこうと思っております。

勝久 卓治 (S63)

今回は、佐々先生の軌跡を改めて調べてみて、各方面に偉大な実績を残されたことに驚愕しました。年表を作成しながら今の自分と比較してしまい、何も成し遂げていない自分を反省するばかりです。今はただこの済々巒の歴史を分かりやすい形で同窓生の皆様にお伝えしつつ、これから何をすべきかを常に考えていこうと思っております。

勝久 卓治 (S63)

今回は、佐々先生の軌跡を改めて調べてみて、各方面に偉大な実績を残されたことに驚愕しました。年表を作成しながら今の自分と比較してしまい、何も成し遂げていない自分を反省するばかりです。今はただこの済々巒の歴史を分かりやすい形で同窓生の皆様にお伝えしつつ、これから何をすべきかを常に考えていこうと思っております。

勝久 卓治 (S63)

「130周年記念事業」の一環として、同窓会名簿に「広告」を募集します。上記の通り、今期は「同窓会名簿」10年ぶりの改定作業が行われます。誌面には広告ページもございます。同窓生として名刺広告や自社企業PRなどを掲載されませんか。ご掲載を考慮して頂ける方は是非、事務局へご一報下さい。規格内容が決まりましたらご案内を差し上げます。

現時点では広告の正式お申込ではありません。協賛ご案内書をお送りするためのご注文(卒年)・お電話番号・メールアドレスなどをお知らせ頂きたいと存じます。

表記について
今号は卒業年度の記載を以下のように行いました。昭和II、平成II、数字は卒業年度です。「年卒」の文字は省略しております。どうぞご留意下さい。

同窓会事務局 関 健二 (S28)
楠田 節子 (S52)
中村友花理 (S59)

広報委員長 坂井木綿子 (S60)

ほか広報委員 森 佐智子 (S46)
山口 悦史 (H4)
坂井木綿子 (S60)

広報副委員長 荒川慎太郎 (H3)

プレ130周年、来年同窓会と学費がタツを組んで節目の時を迎える。たか絶えず人々が「済々巒」を継ぎ、また準備実行「携わ」るが新体制役員である。故、森岡西同窓会会長

130周年 企画 同窓会名簿に「広告」を募集します

上記の通り、今期は「同窓会名簿」10年ぶりの改定作業が行われます。誌面には広告ページもございます。同窓生として名刺広告や自社企業PRなどを掲載されませんか。ご掲載を考慮して頂ける方は是非、事務局へご一報下さい。規格内容が決まりましたらご案内を差し上げます。

現時点では広告の正式お申込ではありません。協賛ご案内書をお送りするためのご注文(卒年)・お電話番号・メールアドレスなどをお知らせ頂きたいと存じます。

お問い合わせ TEL 096-345-3002 FAX 096-346-3225 E-mail tashi@seiseiko-dosokai.gr.jp